

令和5年度長崎県普及指導活動外部評価会議結果報告書

項目	内容等
趣旨	本県の農業者や地域のニーズを的確に捉え、より効果的・効率的な普及活動を展開するため、幅広い視点から普及指導活動を客観的に評価し、得られた評価結果をその活動に反映・改善していくことを目的に実施した。
評価方法	評価の項目は次のとおり。 ・普及指導活動の実施状況(課題設定の背景・目的、普及指導活動の内容、成果等) なお、普及指導活動の実施状況の外部評価は、毎年度、2振興局を対象とし、令和5年度は島原振興局と壱岐振興局を対象とした。
実施時期	令和5年8月17日(木) 11:00～15:20
実施場所	吾妻町ふるさと会館(雲仙市)
外部評価委員	8名(先進的な農業者、若手農業者、女性農業者、農業関係団体、消費者、学識経験者、マスコミ、民間企業)

評価結果

普及指導活動の実施状況

振興局名	課題名	委員が評価した点	委員による普及活動に対する提案	提案に対する普及指導活動への反映状況
島原 振興局	守山地区における水田裏作を活用したブロックリーの作付推進	課題設定 ・水田裏作という具体的な課題設定で、地区の対象者も明確になっている。 ・普及指導の対象者(180戸)が多い中で、課題を推進し、地域の実情を把握・分析・整理した点を評価。特に実施期間(平成30～令和5年度)がコロナ禍にもかかわらず取組を着実に進めている。 ・作付面積が年々増加し、休耕地がほとんどなく、団地化が実現できているなど産地計画の熟度が高い。	課題設定 ・農家に対しては収益の目標設定を行ってやる気を引き出すなど、数値化した目標を農業者それぞれが意識するよう取り組んでほしい。 ・より安定的で効率的な農業経営に向けて機械利用組合の設立や、法人化の検討など、関係機関で連携のもと、農業所得の向上を目指してほしい。	課題設定 ・地域の担い手のうち、認定農業者(認定新規就農者を含む)については、それぞれが策定した農業経営改善計画(青年等就農計画)で収益の目標設定がなされており、その達成に向け今後も支援していきます。それ以外の担い手に対しては、意向を把握しつつ、認定農業者に誘導し、策定した農業経営改善計画の目標達成に向け支援していきます。 ・地域での話し合いをもとに、法人化の検討も含め、担い手の所得向上に向け、土地改良区を中心に関係機関と連携して取り組みます。
		活動方法 ・コスト及び労力軽減を図るための機械利用組合の設立への支援が行われている。 ・現地検討会議を通じて、農家、地元の土地改良区をはじめ、関係機関との産地化に向けた連携がとられている。 ・作付拡大に向け、期間借地による集積を関係機関が連携して進めている。 ・ドローンを使った防除などスマート農業の導入を着手。	活動方法 ・今後も営農意欲を支える活動は重要であり、担い手、後継者等の確保にむけて普及指導員の積極的な巡回指導を期待。活動については、月次等の時間軸が見える取組がわかるようにしてほしい。 ・農地のマッチングを進めるために、新規就農者が入りやすくすること、他地域との連携、長期的なビジョン策定も含め関係機関で連携してほしい。	活動方法 ・月次の活動計画は、年度ごとに作成する普及指導活動計画書に落とし込んでおり、その計画書を、年度当初の役員会に検討資料として提出し、意見をいただいているところです。今後の活動計画についても、これまでと同様に守山地区や関係機関に周知しながら取り組んでいきます。 ・長期的なビジョンとしては、守山地区水田活用プランを策定したところであり、プランの実施に向け支援していきます。マッチング活動については、土地改良区が主体となって取り組まれています。今後は、他地域との連携を進めるとともに、新規就農者とのマッチングを検討するなど、土地改良区、市、農業委員会等との連携を行っていきます。
		活動の成果 ・貸し手、借り手のマッチングを農業者自らが進めている。 ・ブロックリーの作付面積がR元年の3.8haから、R4年には、8.7haまで拡大し、市場等の評価も高まっている。 ・裏作でブロックリーに取り組み、黒字経営になった農家や秀品率7割の確保など農業所得の向上を実現。	活動の成果 ・取組について収益性等も含め広く伝え、他地域の参考となってほしい。	活動の成果 ・これまでの活動について、令和5年11月に開催された長崎県改良普及職員活動事例研修会において県内の普及職員に対し活動報告を行うとともに、県ホームページにおいて普及活動の成果「水田活用支援の取組」として掲載し周知を図ったところです。今後とも、様々な機会を通じて本取組の周知に努めます。

評価結果

普及指導活動の実施状況

振興局名	課題名	委員が評価した点	委員による普及活動に対する提案	提案に対する普及指導活動への反映状況
島原振興局	地域一体で取り組むトマト黄化葉巻病対策	課題設定 ・トマト黄化葉巻病の多発生への対策という課題対策(目標設定)が農家の不安を取り除く取組である。 ・病害虫駆除に向け、利害調整が難しいが、地元関係者を組織化して取組を進めるなど普及活動、指導にふさわしい取組。	課題設定 ・今後、再度の大発生とならないために、休作期間の徹底について生産者へ指導を行ってほしい。	課題設定 ・引き続き、講習会等で休作期間の徹底について指導を行っていきます。また、効果的なコナジラミ防除を行うため、薬剤感受性検定の実施や防除体系の確立について関係機関と検討していきます。
		活動方法 ・関係機関・生産者の方々との連絡会の組織化・地域一体となった防除対策、対応。 ・休作期間も含めて、エビデンスに基づき、適切な対応が行われた。 ・地域で取組むルールを明確にし、組織として周知する仕組みを作り成果を上げた。	活動方法 ・地域一体となった話し合いやルールづくりがスムーズに出来ていくよう、産地の維持発展のために推進体制への支援を行ってほしい。	活動方法 ・出荷組織の枠を越え、地域で一体的に情報共有や防除対策を協議する場である現在の南島原地域トマト生産者連絡会を引き続き支援していきます。
		活動の成果 ・休作期間(60日間)の地域設定等、地域一体となった取組により、黄化葉巻病発生株数の減少と単収向上を実現。 ・コナジラミの特性説明や防除のルール決め、生産者が実行し、休作期間60日の確保により、タバココナジラミの発生を抑えた。	活動の成果 ・産地の担い手の状況を踏まえ、担い手の確保・育成を進めてほしい。 ・活動期間後も引き続き対策の徹底を進めてほしい。 ・普及指導活動の意義や効果が明確にわかる取組であり、この成果は県内産地をはじめ、全国の産地で参考になることから、ホームページや論文、雑誌等にも投稿し、成果の普及を図ってほしい。	活動の成果 ・当地域では、50歳以上の部会員の4割程度は後継者が確保されています。しかし、約6割については後継者が未確定であるため、産地の維持のため、R5年度に部会の担い手育成計画の策定を支援します。この計画をもとに担い手確保に努めていきます。 ・トマト黄化葉巻病感染株は、令和元年産に比べ、令和4年産、令和5年産は令和3年産と同様に低く推移しています。令和5年度は、定植前後のハウス外でのコナジラミが多く発生していましたが、コナジラミのトラップ調査の情報提供や、関係県機関と連携して侵入防止対策や防除の徹底を指導し、被害株は令和元年産の5%程度に留まっています。 ・活動の成果については、長崎県改良普及職員活動事例研修会において取組内容を県内の普及職員へ紹介するとともに、全国の普及職員が閲覧可能な全国農業改良普及支援協会ホームページにおいて活動内容を掲載し、情報を共有しております。また、今後とも、現状の活動状況も含め振興局が定期的に情報を発信している現地情報など様々な機会を活用して、広く情報発信するよう努めます。

評価結果

普及指導活動の実施状況

振興局名	課題名	委員が評価した点	委員による普及活動に対する提案	提案に対する普及指導活動への反映状況													
吉岐 振興局	ながさき黄金 1億円産地実現に向けた生産・販売	課題設定 ・JF、JAとの連携・協働は産地の活性化に向け、進めていくべき事例。 ・市、JAの振興計画と協調してプロジェクトを進めている。 ・吉岐の特徴として、島内業態間の結びつきの良さが挙げられるが、そこを活かしたプロジェクトの組成と活動。 ・ながさき黄金を「吉岐黄金」として、農業、漁業、観光分野と連携し、ブランディングや販路確保など取組を進めている。	課題設定 ・目標年の令和8年度にむけて、ながさき黄金の収量の向上、作付面積の拡大に向けた課題などをより具体化させ、取組を進めてほしい。 ・ビジネスとして成果を出すためには長い期間で計画、目標を作り、生産者目線で観光業と水産業と連携して活動してほしい。	課題設定 ・令和5年の秋作は、生産者16戸(うち新規5戸、農業法人4戸)、面積2.3haとなり、年度目標の4haを達成できました。令和6年度の目標8ha(春3ha、秋5ha)達成のため、令和6年の秋作で茎葉処理機を、令和6年の春作で植付機、収穫機を導入予定です。また、令和5年8月と9月に県農林技術開発センター中山間営農研究室OBを招聘して栽培講習会・現地検討会を開催し、単収アップと新規栽培者の栽培技術習得を支援しています。 ・外部評価会ではお示しできませんでしたが、JA吉岐市により令和12年度までの「ながさき黄金」生産計画が作成されており、目標達成にむけた支援を行っています。 観光業・水産業との連携では、農ビジネスモデル事業および産品づくり事業を活用し、令和3年からJF勝本町と、令和5年10月からは新たに島内9飲食事業者と吉岐黄金を用いた加工品づくりに取り組んでいます。													
		活動方法 ・JA、JFと振興局と連携し、プロジェクトチームの組織化、地域交流会の開催など、地域のつながりを作っている。 ・関係機関連携し、農業者の営農意欲の向上と産地拡大に取り組んでいる。	活動方法 ・吉岐黄金のブランド化が他の地域まで浸透できるよう、もっと若い世代へ普及し、いちごの「あまおう」、サツマイモ「安納芋」などに匹敵するブランドに育ててほしい。 ・「何に取り組むか」は明確なのだが、「普及事業」としての「活動」が理解しづらかったので具体的に表現してほしい。	活動方法 ・JA吉岐市による「吉岐黄金」の魅力発信に向けて、SNSや動画活用法についての情報提供・支援を行い、ブランド化につなげていきます。 ・普及事業として、JA吉岐市の「吉岐黄金」生産性向上に向けて支援・助言しています。具体的には、栽培面では、栽培講習会、現地検討会、機械化体系の実証、選果機導入支援などを実施し、販売面では、貯蔵ばれいしょの発芽対策および糖度・品質分析、「吉岐黄金」加工品開発、展示商談会への出展、ストーリーづくりなど、島内飲食事業者およびJA吉岐市の「吉岐黄金」ブランディングを支援・助言しています。													
		活動の成果 ・新たにながさき黄金とJF勝本町スルメイカのファストフードプロジェクトを立ち上げ、辰ノ島への観光客をターゲットにするなど取組を着実に進めている。 ・コロナ禍の影響もあるものの、「吉岐」というブランド力をフォーカスしての商品化(6次化)。	活動の成果 ・単年度ごとの「到達点」が見えるようにしてほしい。 ・成果を数字(金額)で計れるか。「儲け」が、具体的に見えてくれば継続のエンジンになるのでは。関係者と力を合わせた継続的な支援を行ってほしい。	活動の成果 ・外部評価会ではお示しできませんでしたが、JA吉岐市において、令和12年度までの「ながさき黄金」生産計画が作成されており、各年度目標の達成にむけた支援を行っています。 【ながさき黄金 生産計画】 <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td>R5</td> <td>R6</td> <td>R7</td> <td>R8</td> </tr> <tr> <td>面積</td> <td>4ha</td> <td>8ha</td> <td>10ha</td> <td>15ha</td> </tr> <tr> <td>販売額</td> <td>28百万円</td> <td>56百万円</td> <td>70百万円</td> <td>105百万円</td> </tr> </table> ・令和5年の春作では、目標としていた農家振込額150円/kgを達成できました。県内の一般的なばれいしょ栽培では農家振込額が70~90円/kg程度ですので、「儲かる品目」として推進していきます。		R5	R6	R7	R8	面積	4ha	8ha	10ha	15ha	販売額	28百万円	56百万円
	R5	R6	R7	R8													
面積	4ha	8ha	10ha	15ha													
販売額	28百万円	56百万円	70百万円	105百万円													